

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 14 章 22～33 節>

①弟子たちへの訓練は続く。その中で彼らの信仰は練られて行く

イエス様は「**強いて**」(22)弟子たちだけ舟に乗せられました。そこで出来事は起きました。弟子たちにとっては、「**あなた方が食べ物を与えなさい**」(16)と命じられたのに続く試練の場となりました。しかし、弟子たちはこれを通して着実に主イエスへの信仰が深められたのではないのでしょうか。ここから読み取るべき第一のことはこれです。

②恐怖は理解によって乗り越えられて行く

「**弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、『幽霊だ』と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた**」(26)。そうだろうと思います。なにしろ初めての体験ですから。無理解は人間に恐怖を生みます。しかし理解出来た時にその恐怖は止みます。一足飛びに、「**彼らの信仰が薄いから**」(31)と片づけてしまっただけではないと思います。聖書の信仰は理解できないことを理屈抜きに信じろと求めるようなものではないからです。主イエスは確かに水の上を歩いて来られた。しかし、それが主イエスだということを理解して弟子たちの恐怖は消えたのです。しかしなお一番大事な問題が残っています。そのようなことができるお方は誰なのかを理解する問題です。弟子たちが今日の最後で為した言動は重要です、「**舟の中にいた人たちは、『本当に、あなたは神の子です』と言ってイエスを拝んだ**」(32)。

③私たちの代表ペトロ。その彼が取った道こそ私たちが取るべき道

ペトロは大胆にも「**水の上を歩かせて下さい**」とイエス様に願い出、それが聞かれると本当に歩き出しました。見上げた信仰です。ペトロは弟子たちの代表だと言われるのも当然のように思われます。しかし、聖書はそのペトロが強風に気づき、怖くなった途端に沈みかけたことも記しています。ペトロは自分の話を聞かせたのでしょう、「**こんな自分を主が助けて赦して下さった。自分もまたそれを感謝し、この主のために生きる者となったのだ**」と。もしペトロが代表だとしても、それは弟子たちや私たち皆が持つ私たちの信仰の弱さを一番顕わに示した代表でもあるのです。そして、彼はまた、私たちが倣うべく、主イエスに従って生きた代表でもあるのです。